

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 附属小学校 教諭

氏 名 倉又 圭佑

研究期間 令和3年度

| | |
|--|--|
| 研究プロジェクトの名称 | 関係人口拡大に向けた小学校の取組 |
| 研究プロジェクトの概要 | <p>総合学習を通じて、妙高市矢代地域における「関係人口」拡大に向けて、小学校がもつ可能性を見出していくプロジェクトである。関係人口とは新しい概念であり、定住人口（そこに住み続ける人）と交流人口（観光客）の二つの間に位置する概念である。少子高齢化社会の中で、そこに住んではいないが、その地域を大切に思う人が増えることで、地域の持続や文化の継承が可能になるのではないかと考えられている。</p> <p>そこで、上越教育大学附属小学校の5年生の児童が、元々は関係をもたない妙高市矢代地域を訪れ、総合学習を通じて、矢代地域での体験学習を重ねていく。そして地域の魅力を味わったり、その魅力を発信したりしながら、関係人口を拡大するために、具体的にどのような取り組みができるのかを探り、持続可能社会における小学校がもつ可能性を見出していく。</p> |
| 研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。 | <p>総合学習（附属小学校における創造活動「矢代のたより」）において、年間10回矢代を訪れた。そこでは、「古民家カフェ矢代」を中心的な場所として継続的にかかわることに加え、ブランド米となっている矢代米作りに取り組んだり、その米作りに重要な豊富な「水」に関わる学習（用水・矢代川・砂防の歴史など）に取り組んだりした。主な取組としては以下に具体を示す。</p> <p>①「古民家カフェ矢代」のメニューを考案 ②古民家カフェ矢代ののぼりの制作、設置 ③矢代米作り（田植え、稲刈りなど） ④用水の調査 ⑤矢代米の販売 ⑥矢代米売上金を古民家カフェ矢代の看板設置費用として寄付 ⑦矢代地域協議会主催のロッテアライリゾートでのイベント参加 ⑧文集の作成、配付 ⑨矢代新聞の発行、全戸配付 ⑩矢代米給食など。</p> <p>1年間の活動を通じて、矢代の方からは「古民家カフェ矢代に訪れるお客さんの数が増えた」「附属小学校の新聞や文集が矢代地域で話題になっている」「自分たちが住む地域の魅力が発見できた」などの感想をいただいた。</p> <p>1年間の活動後に実施した児童アンケートの結果からは、【活動が終わっても、また矢代に必ず行きたい、行こうと思う】と答えた児童の割合が93%であった。その理由として、「矢代がどうなっているか、時々確かめたいから」「楽しい場所があちこちにあることを知ったから」「古民家カフェ矢代の新しい看板の設置を見届けたいから」「矢代が大好きになったから」「今までお世話になった人に、また会いに行きたいから」などの記述があった。</p> <p>総合学習の体験を通じて、児童が矢代地域を好きになり、あらゆるかかわりをつくったことで、活動後も矢代地域とつながりをもち続けたいとする思いが育まれていたことが明らかになったといえる。</p> |
| 研究成果の発表状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・上越教育大学附属小学校において矢代地域協議会の方々を招いて学習報告会を実施、矢代の関係人口を拡大するための3つの提案を行なった。 ・矢代地域での1年間の活動をまとめた、文集「矢代のたより」を作成、配付した。 |
| 学校現場や授業への研究成果の還元について | <ul style="list-style-type: none"> ・文集「矢代のたより」では、矢代地域での体験活動を時系列に並べ、児童が書いた作文と写真を併せて示したことで、具体的に、いつ、どこで、どのような活動ができるのかを明示した。文集は、今後、矢代地域で田舎体験を希望する学校（首都圏）や近隣の学校（妙高市立の学校）の参考資料として使用する。 |